

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
 田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
 芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
 ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
 保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

「コロナ禍の団体活動」

「わいわいフードパントリーから見えること」

新型コロナウイルスの感染拡大は未だ収まる気配がなく、まだまだ不安な日々が続いています。そのような状況で、市民団体は何を感じ、どんな行動を選択したのか。今月号と来月号の2号にわたりお伝えします。

今回取材したのは「西東京わいわいネット」代表の岸田久恵さん。同団体は2015年、田無公民館の講座「子どもの貧困と向き合う地域をつくる」の参加者が集まり生まれました。子どもの食や学習支援、居場所づくりの活動として、毎月1回、公民館で子どもと大人が一緒に料理をして食べる「わいわいクッキング」を行っていました。

しかし感染の拡大によって昨年3月、公民館が休館となり、活動ができなくなりました。「子どもの食」という課題意識でいくと、学校がない時ほど心配は高まる」という岸田さん。

何かできないかという思いで、3月、市内で子ども食堂を運営している有志が実施したフードパントリー(文末※参照)に参加。

市も広報の支援や、実施場所(田無第二庁舎入口)を提供する形で協力しました。そこに訪れる多くの人の姿を目の当たりにし、必要性を再認識した岸田さんは、5月以降、民間の貸しスペースで独自にフードパントリーを行っています。6月に公民館が再開すると、感染予防のため、クッキングに変わって、大人が作ってみんなで食べる「子ども食堂(入れ替え制)」の形態で、会の活動を再開します。

そして7月、市の説明会で都の「子供の食の確保事業」による補助金の存在を知り、それならば困っている家庭や子どものために使いたいと、継続的な開催を決定します。その後、準備期間を経て、ついに10月から週2回の「わいわいフードパントリー」がスタートしました(3月までの半年間、全49回の予定)。

大変なことは、

食品の買い出しですね。予算内であるべく多くのものをそろえるため、みんなで安いところを見つけては情報共有し、なんと

実施当日の体制は？

会のメンバーのほかに、大学や中学生が応援してくれています。また、当日会場に食品等を寄付してくださる方もいます。6月に公民館が再開する方も来て手伝ってくれます。

ほかに、市内の農家さんが野菜を譲ってくれたり、近所の方が余っているものを持ってきてくれたり、さまざまな協力によって成り立っていることを何より感じます。こうした広がりについては、田無の駅前という立地も要因の一つだと思います。

場所探しは？

不動産屋さんにご相談したり、まちを歩いたり、みんなであちこち探すなかで、スタッフの一人が場所とリフォーム業者さんを見つけてくれました。オーナーさんは、そのような目的ならぜひと、利益度外視の家賃で貸してくださり、リフォーム業者さんは、必要最低限の費用で休日に施工してくださいました。

また、向かいのコンビニさんは、ゴミを引き取ってくれたり、時々お菓子や商品券等を差し入れたりしてくれます。こうしたみなさんの協力が、私たちの「がんばらなきゃ」という気持ちを後押ししてくれました。49回は大変だなと思いましたが、同時にやる意義を感じていました。

学生スタッフについて

ひとり、福祉の勉強をして

いる大学生です。学校経由で私たちの活動を知り、申し出てくれました。もうひとり、通りがかりを捕まえました(笑)。店舗の前でチラシをじっと見ていたのでスタッフが説明をしたら、教師志望で子どもたちとかわることをしたいと話をしてくださいました。子ども食堂に来ていて中学生が、フードパントリーを手伝いに来てくれています。

「がんばらなきゃ」

必要な方たちが気軽に入れるようにしたいと思っています。困っていたり過去に困った経験がある人ほど遠慮することが多いです。もっと困っている人がいるはずだからと、自己責任の思いが強かったり「助けて」が言えなかったりする。「コロナなんて、みんな被害者だし、私たちも助成金をもらって運営していますから遠慮しないでもらってください」と言っています。

クッキングとパントリーの違いについて

わいわいクッキングは、時間をかけて子どもたちと一緒に料理して、周りの大人たちと知り合いになるといふ継続的な関係を築くことに重点を置いてやってきました。かなりの関係がないと悩みなんて言えないだろうから。信頼できる大人がいて、安心感がある、ぼろっと悩みを打ち明けてくれるんです。

フードパントリーは、食品を渡すという短い時間ですが、月1回のクッキングより圧倒的に回数が増えて、しょっちゅう会っていると

いう感覚があります。形態は違うけれど、狙いや目的に対する効果として、共通するものを感じています。

気持ちを保つ秘訣は？

今回たくさんの方の協力者やありがたうって言うてくれる人たちが出会えました。良い人いっぱい会えるから、なんとか気持ちを保っています。大人だってギリギリのところ自分奮い立たせて、このコロナ禍を過ごして

活動を継続するコツは？

大変でいっぱいになった時は、メールでみんなにづばやいて、不満やイライラは小出しにしています。するとメンバーが「あ、岸田さんが大変そうだから買い物しなくちゃ」と言って動いてくれたり。

接客や対応もメンバーそれぞれですが、それぞれがあつていいんじゃないかという思いで、自由にやってもらっています。

今、伝えたいことは、

誰かを助けたり、少しでも役に立ったりすることで、それを嬉しいって思う人間は、実は周りにいっぱいいることを知ってほしいですね。だから、つらいとか困るとか、みんなもつとやうっていつも思います。

迷惑かけちゃいけないとか、自己責任とかじゃなくて、私たちが助けてって言うてくれた方がありがたいです。

支援を受けた経験がある人

て、すごく人に優しいし、困っていることに敏感だし、今度は誰かに何かしてあげようとする人が多いです。まずSOSを出して、助けてもらうことをためらわないでほしい。

最後にひとことお願いします

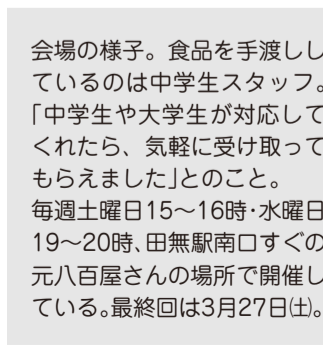
「支援する人・される人」ではなくて、その人の得意分野で、それぞれが持ちつ持たれつ関係なんだと思います。私なんか結構楽観的で、それでなんとかなっていくって思ってるんです。

最近自分には助けられないから、助けられる人を捕まえてくればいい、と思っています。今は私を助けてくれる人の方が多いんじゃないかと思えますし、みんなに助けられながら、私は違うことで助けになればいい。人は一人じゃ生きられないって当たり前なんだけど、忘れがちです。

※フードパントリー…ひとり親や生活困窮者など、生活に困っている人々に食料を無料で配布するための活動拠点や事業



岸田久恵さん。西東京わいわいネット代表。元小学校教師。2011年、NPO法人「猫の足あと」を設立。「猫の足あとハウス」で食事付きの学習指導を行っている。「子どもの実態については把握していたので、学習支援や子どもの貧困について、何かやりたいという思いはずっとありました。」と活動の理由を話してくださいました。



会場の様子。食品を手渡ししているのは中学生スタッフ。「中学生や大学生が対応してくれたら、気軽に受け取ってもらえました」とのこと。毎週土曜日15～16時・水曜日19～20時、田無駅南口すぐの元八百屋さんの場所で開催している。最終回は3月27日(出)